

3 協働事業実施状況（令和5年度）

① 協働の形態：共催（23件）

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
1	まちかどミー ティング (協働・男女平 等参画室)	例年実施 (昭和62年頃から 継続実施)	市長が各地区に出向いて、町 内会や自治会の方と地域が抱 える課題や要望等について、 意見を交換する懇談の場であ る。また、市民の方に知って いただきたい情報について、 市職員がテーマプレゼンテー ションとして説明すること により、双方向の対話形式にな るよう取り組んでいる。	82町内会	令和 5年 8月22日～10月31 日 (305人) 16地区にて開催	300件弱の意見や要望等が提出 されており、各担当課で対応を している。市が行うテーマプレ ゼンテーションについて、出席 者からは、市の取組をわかりや すく説明してくれて大変いい、 継続して行ってほしいという意 見が出ている。
2	ノーザンホース パークマラソン 2023 (スポーツ都市 推進課)	例年実施 (平成23年頃から継 続実施)	マラソン大会の実施 ノーザンホースパークを会場と し、苫小牧市・安平町・千歳市 を回るコース設定 ・ハーフ+7 kmトレイル ・ハーフマラソン ・7 kmトレイル ・2.5 kmペアラン	ノーザンホースパーク マラソン実行委員会、 (公財) 苫小牧市ス ポーツ協会、安平町、 安平町体育協会、安平 町教育委員会	令和 5年 5月14日 (3,723 人)	スポーツの振興や地域住民の参 画、また多くの参加者等により地 域活性化に寄与している。
3	苫小牧民報杯 第35回苫小牧 ハスカップトラ イアスロン大会 in勇払 (スポーツ都市 推進課)	例年実施 (平成24年頃から継 続実施)	トライアスロン競技の実施 ・一般の部 スイム1.5 km、バイク40km、ラン1 0km ・リレーの部 スイム1.5 km、バイク40km、ラン1 0km ・バイク&ラン バイク40k m、ラン10km 国民体育大会北海道ブロック予 選会 日本選手権北海道予選会 日本学生選手権北海道地区予選 会 北海道トライアスロンサーキット 同時開催	苫小牧トライアスロン 協会、(公財)日本ス ポーツ協会、(公財) 北海道スポーツ協会、 株式会社苫小牧民報 社、(公財) 苫小牧市 スポーツ協会、苫小牧 市教育委員会	令和 5年 7月30日 (約300 人)	スポーツの振興や地域住民の参 画、また多くの参加者等により地 域活性化に寄与している。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
4	第24回大学アイスホッケー交流戦 (スポーツ都市推進課)	例年実施 (平成12年頃から継続実施)	国内の大学アイスホッケーチームの交流	公益財団法人苫小牧市スポーツ協会	令和5年8月23日～9月3日(約150人)	・全国各地から大学のアイスホッケー部が集うことで、氷都とまこまいとしてのブランド力向上。 ・宿泊や飲食による、地域経済効果
5	備えるフェスタ2023 inとまこまい (危機管理室)	単年度(新規)実施	近年、激甚化・頻発化する風水害への対応や、千島・日本海溝沖地震等の大規模地震への備えに加え、新型コロナウイルス感染症を踏まえた感染症と自然災害の複合対策が必要となる中、自然環境の変化に合わせ、自助・公助・共助がそれぞれの力を高め、強みとともに弱みを共有し、「つながり」、補い合う関係作りが求められている。北海道胆振東部地震から5年目、東日本大震災から12年目にあたる2023年、過去の教訓を振り返るとともに、来場者の方々がさまざまな体験や参加を通じて、一人ひとりに合わせた備えの重要性と、日常的なつながりの大切さを感じていただくきっかけの場とする。	一般社団法人苫小牧タウンマネジメント、一般社団法人苫小牧建設協会、株式会社栗林商会、苫小牧港開発株式会社、室蘭海陸通運株式会社	令和5年11月4日(約6,000人)	市民からの反響がとて大きかったため、今年度は市内の防災・減災に係る活動を支援するため、開催補助金を助成する。
6	消費生活講演会 (市民生活課)	例年実施	・消費者自らが、その時代に即応した豊かな暮らしを創造していく機会と暮らしに役立つ知識や情報を提供し、消費者意識の高揚を図ることを目的に開催。 ・テーマや講師選択、実施について協力。	苫小牧消費者協会	令和6年2月17日(20人)	クイズや対話により参加者と一緒に考えるワークショップ形式で行い、衣服がもたらす貧困や環境などの社会問題について理解が深まった。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
7	社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会主催、北海道社会福祉総合基金助成事業 居場所「とまとま」 (総合福祉課)	単年度(新規)実施	ひきこもり当事者や家族の外出機会の創出を目的とし、交流を目的とした当事者会、当事者経験のあるピアスタッフからの事例提供や支援機関による相談を中心とした家族会に分かれ実施。当事者の苦手ごとの一つである人間関係構築の一助となるよう、参加者同士相手を認め「うまく付き合えたこと」と自分を認められる場所にしたい。	苫小牧市社会福祉協議会、苫小牧保健所	令和 5年 9月 7日 (10人) 令和 5年11月 2日 (10人) 令和 6年 1月11日 (10人) 令和 6年 3月 7日 (10人)	参加者はピア(同位性)をもった交流を当事者からの話題提供に期待する声が過半数以上を占め、対面での居場所づくりの有用性を感じる結果となった。とりわけ、今年度は新たな試みとして、札幌在住のピアスタッフからの話題提供だけではなく、相談支援事業所の協力のもと、市内の当事者・経験者3名から話題提供をいただいたことは、大変大きな一歩であると感じた。
8	えがおの花咲く写真展 in 苫小牧 (介護福祉課)	例年実施 (平成29年頃から継続実施)	介護や福祉の現場が優しい気持ちであふれていること、そこで生活する人や働く職員がともに人生をつくっている様子を見ていただき、素敵なおえがおの花が沢山咲いていることを知ってもらおう。	えがおの花咲く写真展 in 苫小牧2023実行委員会	令和 5年11月11日～13日	介護の現場を写真展として周知することで、市民の介護に関する関心や介護職への関心につながり、地域からの介護への理解や介護職への就労のきっかけとして寄与している。
9	リーダー養成事業 (青少年課)	例年実施 (昭和52年頃から継続実施)	本事業は様々な体験活動から積極的に社会参加するたくましい青少年を育成する目的で実施しており、苫小牧市子ども会育成連絡協議会の後援事業となっている。苫小牧市子ども会育成連絡協議会主催の各種事業もリーダー養成認定事業であることから、各種事業に参加することでポイントが得られ、リーダー認定を行う制度を協働で行っている。	苫小牧市子ども会育成連絡協議会	・子ども会交流会 令和 5年 6月24日、令和 6年 1月21日 (46人) ・子ども会スポーツ交流会 令和 5年10月 1日 (24人) ・子ども芸術祭 令和 6年 2月17日～18日 (137人)	子どもたちの育成について、各地域の子ども会を育成する役割を担っている苫小牧市子ども会育成連絡協議会と協働して計画及び実施することにより、子ども達に多くの学習機会を提供することができ、また、多様な意見を聴取することで更なる事業の発展に繋がっていると考えている。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体 等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
10	令和5年度第1回 苫小牧地域振興ゼミナール (港湾・企業振興課)	2年に一度実施	苫小牧地域振興ゼミナールでは、関係団体や企業、行政機関など広く地域振興にかかわる団体が参加し、様々な観点から議論を深めることで、本市の地域振興の発展に対し大きく貢献することを目的としている。㈱苫東の他、苫東立地企業や国土交通省、北海道、苫小牧市など関係機関の役職員を対象に様々な産業の講師を招き講演会を行っている。 本セミナーでは、苫東地域のGX推進のため、自然電力㈱の瀧口執行役員他3名を招聘し、「苫東エリアを中心としたGX推進へのアクション」をテーマに講演いただくことから苫小牧市への共催依頼があった。	㈱苫東	令和5年5月26日(49人)	苫小牧地域振興ゼミナールは年に複数回開催されており、様々な産業分野の講師による講演等を受けて、新たな知識や学びを得ることで、地域振興や経済発展につながる効果が見込める。
11	市民技能体験教室「庭木の剪定」「内装」「日曜大工」「左官」 (工業・雇用振興課)	例年実施 (昭和62年頃から継続実施)	市民と技能士とのふれ合いを通じて、技能そして技能士制度への理解を深める。 ・庭木の剪定：庭の手入れについて講義と実技指導 ・内装：家のクロスの剥がし方、貼り方の講義と実演 ・日曜大工：ウッドデッキの作製、塗装 ・左官：しっくい壁塗り体験、タイルアート作製	一般社団法人苫小牧地域職業訓練センター運営協会 庭木の剪定：苫小牧造園協同組合 内装：苫小牧内装業協会 日曜大工：苫小牧建築大工技能士会、苫小牧塗装工業協同組合 左官：苫小牧地方左官協同組合	・庭木の剪定 令和5年10月14日(6人) ・内装 令和6年1月20日(10人) ・日曜大工 令和6年2月18日(16人) ・左官 令和6年3月9日(10人)	各教室終了後のアンケート結果では、無回答者を除いた参加者の100%が満足していると回答している。
12	2023年度サテライト・ゼミ 苫小牧「人材採用・定着の進め方」 (工業・雇用振興課)	単年度(新規)実施	中小企業が限られた人材を“戦力”に育てるための視点や手法を理解し、強い組織を作り上げるための人材育成の進め方について演習や事例を交えて学んだ上で、自社の人材育成プランの立案に取り組む。	独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部	令和5年9月13日(6人) 令和5年9月14日(6人) 令和5年9月15日(6人)	市内企業5社から管理者やリーダークラスの方5人が参加し、経営や人材育成の目的、必要性を学び、演習等を交え、企業の垣根を超えた人脈づくりにも繋がり、市内の中小企業の振興を図ることができた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
13	ひずみゲージの基礎知識と測定実習セミナー (テクノセンター)	単年度(新規)実施	東京や愛知県などの先進地で開催している最新技術のセミナーを、苫小牧市及び近郊の製造業者などに向けて開催することで、当地における今後のものづくり技術の向上を図ることを目的とする。	早坂理工(株)	令和5年6月20日(12人)	アンケート調査では、「満足」または「やや満足」との回答を参加者の9割以上から得られた。また、「初めて学んだこともあり勉強になった」や「(今回新たに学んだことを)改めて勉強したい」などの具体的意見も得られた。
14	2023年度QC手法研修会 (テクノセンター)	単年度(新規)実施	道内企業の業務改善のスキルアップと活性化、および交流各企業が日常的に行っている改善活動の場の提供と情報共有を行うため	QCサークル北海道支部 苫小牧・千歳地区	令和5年6月22日(17人)	参加者からはとても分かりやすく勉強になったとの意見をいただいている。
15	第3回電動化市場参入促進セミナー 「e-Mobilityが切り拓く新時代～自動車部品産業の生き残り策は～」 (テクノセンター)	単年度(新規)実施	自動車産業のサプライヤーが集積する苫小牧地区にて自動車のEV化の動きに関する情報提供を行うため。	北海道経済産業局、(一社)北海道機械工業会	令和5年10月14日(20人)	最新技術動向に関する情報を得ることができ大変参考になったなどの意見を得られた。
16	令和5年度 移動工業試験場(苫小牧) (テクノセンター)	例年実施 (平成10年頃から継続実施)	道内中小企業の技術力向上及び地域産業の振興発展を図ることを目的として、 ・コストダウンの進め方 ・AIを活用した画像認識技術 ・道内産業に使えるロボット技術と応用開発事例 に関する講習会を実施。	(地独)北海道立総合研究機構 工業試験場	令和5年11月14日(19人)	新たな技術に触れることは、苫小牧地区の製造業にとって非常に有用であり、地域企業の技術力向上に寄与できた。
17	令和5年度技術者研修 (テクノセンター)	例年実施 (平成27年頃から継続実施)	苫小牧地域の製造関連企業に対する人材育成を実施するため。 実施コース 「精密測定技術」	北海道職業能力開発大学校	令和5年12月5日～6日(6人)	セミナーで取得できる技術は苫小牧地域の製造業などにとって非常に有用であり、地域企業の技術力向上に寄与できた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
18	令和5年度 苫小牧市中小企業創業サポート事業 (商業振興課)	例年実施 (平成27年頃から継続実施)	創業サポート事業は、苫小牧市、苫小牧商工会議所及び苫小牧市男女平等参画推進センターにおいて開催される創業セミナーの受講完了者に、創業等に要する経費の一部を補助することにより、「苫小牧市中小企業振興条例」を推進し、地域経済の発展、経営基盤の強化、雇用の確保を図ることを目的とします。	苫小牧商工会議所、苫小牧市男女平等参画推進センター	令和5年5月13日(20人) 令和5年5月20日(21人) 令和5年5月27日(16人) 令和5年6月3日(16人) 令和5年6月14日(42人) 令和5年6月17日(10人)	本事業のセミナー参加人数は延べ125人、補助金の交付申請は28人から申請されました。その結果、令和5年度内で実際に市内で創業し、補助金の交付決定に至ったのは23人となっており、地域経済の発展、経済基盤の強化、雇用の確保に寄与したものと捉えています。
19	令和5年度 苫小牧市民塾 (生涯学習課)	例年実施 (平成19年頃から継続実施)	『知らないで損!?意外と知らない医療費のコト』をテーマに苫小牧市女性団体連絡協議会と共催。健康保険の仕組みをわかりやすく解説し、高額な医療費を支払った際に一部が払い戻される高額療養費制度、お薬手帳の活用方法など医療費の負担を軽くする公的制度について学んだ	苫小牧市女性団体連絡協議会	令和5年9月13日(61人)	講演内容は、健康保険の仕組みから始まり、高額療養費、お薬手帳の正しい活用方法といった医療費に係る公的制度についての説明であり、難しい内容ではあったが、講師の具体例を交えた説明はわかりやすいと概ね好評で、講演終了後、講師に個別に相談に来られる市民の方もいた。
20	苫小牧市小・中学生のための札幌しおさいコンサート (生涯学習課)	例年実施 (平成21年頃から継続実施)	本市の小・中学生に生のオーケストラ演奏を肌で感じてもらい、豊かな感性を育むことを目的とする。	株式会社北海道新聞社、株式会社苫小牧民報社	令和5年9月23日(682人)	申し込み時点では、929名の入場希望者があった。当日は、天候にも恵まれ、682名の方に来場していただくことができた。今年度はコンサートの冒頭に、サプライズで「みんなのとまチョップ」を演奏し、壇上にとまチョップが登場しダンスをする演出があったことから、鑑賞者が曲に合わせて手拍子するなど会場の一体感が生まれ、フルオーケストラの演奏を十分に楽しんだ様子であった。当事業は小中学生がクラシックに触れる貴重な機会であるため、次年度以降の開催についても是非にという声があった。そのような反応を得たことから本コンサートは、今年度も十分な成果をあげたものと判断する。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体 等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
21	「さいとうしのぶさんの親子絵本ライブ&サイン会」(さいとうしのぶさん講演会) (生涯学習課)	単年度(新規)実施	苫小牧読み聞かせ文庫活動連絡会と共催し様々な絵本作家さんをお招きし、絵本作家さんの生の声を市民の皆さんに届ける講演会を開催。	苫小牧読み聞かせ文庫活動連絡会	令和 5年10月 1日 (55人)	準備段階で、明確なビジョン・方向性を打ち出し進むことができた。 今回は「親子で楽しむ」をコンセプトに開催し、絵本作家さんが大型絵本や紙芝居を読んでくださり、参加者にとっても好評だった。 今後も、大人向けの講演会に親子で楽しんでいただく講演会も織り交ぜながら開催して行きたい。
22	パブリックビューイングinプラネタリウム(科学センター)	例年実施 (令和4年頃から継続実施)	氷都苫小牧を拠点とするチームとしてアイスホッケーの魅力を高め地域の活性化に貢献することを目指す(株)レッドイーグルス北海道の趣旨に賛同し、レッドイーグルス北海道の試合のパブリックビューイングを行うことで、地域に根差した活動を行うと同時に、プラネタリウムの地域利用及び多目的な利用を目指す。試合の休憩時間に星空解説を行い、プラネタリウムと試合の両方を楽しんでもらう。	(株)レッドイーグルス北海道	令和 5年12月16日 (38人)	プラネタリウムを投影以外で利用できるめずらしさと、プラネタリウムのスクリーンに大画面表示を行い、またレッドイーグルス北海道による解説付きで多くの人と観戦できることから非常に好評を得ている。また、プラネタリウムを利用したことがない方にも足を運んでもらう良い機会となっている。
23	子ども広報部「びとこま」(美術博物館)	例年実施 (平成24年頃から継続実施)	美術博物館の美術館活動における基本理念のひとつである「子どもの感性を育む美術館」に基づき、子どもたちの美術全般に対する興味・関心を高めることを目指している。 また、アートを媒介とした子どもと大人のディスカッションに活動の力点を置くことで、子どもたちの論理的な思考力や表現力を高めることをねらう。	NPO法人 樽前artyプラス	令和 5年 5月13日 (21名) 令和 5年 6月18日 (14名) 令和 5年 8月20日 (33名) 令和 5年 9月 2日 (16名) 令和 5年10月14日 (18名) 令和 5年11月11日 (16名) 令和 6年 1月 7日 (17名) 令和 6年 2月17日 (11名) 令和 6年 3月 2日 (19名) 全9回 延べ165人	参加者からは、「また参加したい」、「子どもと大人のディスカッションを通して子どもの成長が見られた」など一定の評価を得ている。子どもの美術全般に対する興味・関心を高めるだけでなく、人と関わる積極性が向上するなど子どもの成長にも良い影響を与えていると考えている。